

◆ 平成 29 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 いろいろ生きものネット埼玉

20A-29

代表者：代表理事 脇坂純一

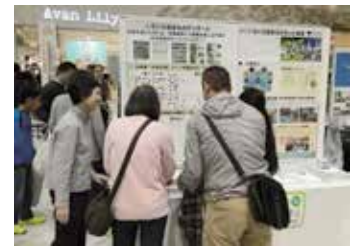
URL : <https://sites.google.com/site/saitamainenet/>

1. 活動が必要とされた状況

- ① 狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動：狭山丘陵の保全活動は、継続的な取組が必要。原市沼川のオオフサモは、モニタリング活動が必要。
- ② 生物多様性保全の普及啓発活動：住民の理解と活動を促すためには、わかりやすく役に立つ冊子などの発行、効果的な広報などが求められる。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ① 狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動
 - ・ 里山保全活動は、「奇数月の最終日曜日に実施」というルールを作り、年 6 回（雨と雪で 2 回中止）下草刈り、常緑樹の伐採、新たなコマうちなどを実施した。（参加者 3～10 人）
 - ・ 原市沼川の特定外来生物オオフサモの除去活動は、様子を継続的にモニタリングした。
- ② 生物多様性保全の普及啓発活動
 - ・ H29/10 に「埼玉県の野外植物観察に役立つ 外来植物ポケットブック 2017」を 2000 部印刷した。（28 年度の改訂版）
 - ・ H29/10/20～22 にイオンレイクタウン店で開催された「ACT Green ECOWEEK 2017」に参加した。（来訪者 600 人）
 - ・ H30/2/3 に、「増加する外来の虫たち 現状と対策を考える」をテーマに第 4 回生きものフォーラムを 180 人の参加者を得て開催した。クビアカツヤカミキリによる深刻な被害の恐れなどを周知できた。



3. 活動の成果

- ・ 緑の森博物館の当団体管理地（0.9ha）の里山整備がさらに進んだ。
- ・ 外来植物ポケットブック 2017 は引き続き引き合いが多く、大変好評だった。今後も活動団体に提供していく。
- ・ ECOWEEK 2017 では、シールアンケートをするなど、子供たちにもわかりやすく生物多様性の PR ができた。
- ・ フォーラムでは、外来昆虫に関わりのある行政、環境団体、研究者、樹木医、公園管理者など 180 人の参加を得て対策の必要性を多角的に広報できた。

4. 今後に残された課題

- ・ オオフサモ除去活動は、原市沼川のモニタリングを継続し根絶すること。
- ・ 里山保全活動は楽しいものとし、新人も勧誘すること。また、参加者が里山保全活動の全体像を十分に理解、体験、伝播できるようになること。
- ・ 生物多様性保全活動を促進する多角的な情報発信役を担いたいと考えるが、そのための自らの活動の強化（対象の拡大、実践・研究・モニタリングの深化、活動分野の多角化など）を図っていくこと。